

■ OnAir 2500 Modulo ユーザーレポート

株式会社 InterFM 様

OnAir 2500 Modulo - 18



名古屋支社にOnAir 2500 Moduloを採用



株式会社 InterFM
名古屋支社 放送担当
相馬 美咲

経緯

InterFM名古屋新局開局に伴い、スタジオを新設することになりました。東京のスタジオをベースに構築しました。

機器選定にあたって

まず、音声卓である以上「音」から選定しました。STUDERの機器は本当に“STUDERの音”がするところに素晴らしさを感じました。次に、DJが音声卓を操作しながら喋るワンマンスタイルをとる当社では、技術者でないスタッフでも簡単に操作出来る機器である必要があり、「操作性」が重要でした。また、これから長く使用していくものであり、放送に直結するものであることから当

然、「信頼性」も重要でした。そして、何よりも重要かもしれない「営業担当者の人間性」も考慮しました。全てを満たしていたのがSTUDERの音声卓でした。その後、価格帯と実現可能な仕様などを確認し、STUDER製音声卓のラインナップでどれが適切かを念入りに検討した結果、OnAir2500 Moduloに決定致しました。またスタジオデザインに合わせて自由にレイアウト出来る点や、信頼性向上を図るための電源を二重化出来る点も魅力的でした。

スタジオシステムの概略

スタジオは2部屋あり、各スタジオに1台ずつ18フェーダー仕様を設置しました。スナップ・ショット設定として、ワンマンDJスタイルモード、スタジオモード、スタジオライブモードが保存されています。マスター室にも6フェーダー仕様を1台導入し、音声CODECとのルーティングをスナップ・ショットに割り当てることにより、技術スタッフでなくても簡単にルーティング出来るようにしました。

納入後

日々の操作で、いろいろな箇所の設定変更を行ってもスナップ・ショット機能により、ボタンひとつで保存してある状態に戻ってくれるので、気

軽に操作することが出来ています。フェーダーに割り当てる素材の変更が簡単に出来るのでとても便利です。カスタムスイッチを使用して、次に出す素材の目印とさせたり出来るのも操作ミス防止に役立っています。納入後の操作トレーニングでは、当社側の都合で時間がない中、営業担当者に丁寧にわかりやすくレクチャーしていただきました。「何かあったらいつでも連絡くださいね」と仰っていただいております。スタッフ一同でも心強く思っております。今後、新局を盛り上げていく様々な場面で活用していきたいと思っております。

最後に、今回の音声卓導入において親身になってご対応いただきましたスチューダー・ジャパンブロードキャスト様には大変感謝しております。この場を借りて、心より厚くお礼申し上げます。

